

桂坂だより 特別号

学校生活について(ふりかえり) アンケート結果【前期】

平成29年10月13日

京都市立桂坂小学校

校長 若松 美里

TEL 333-1101

FAX 333-1102

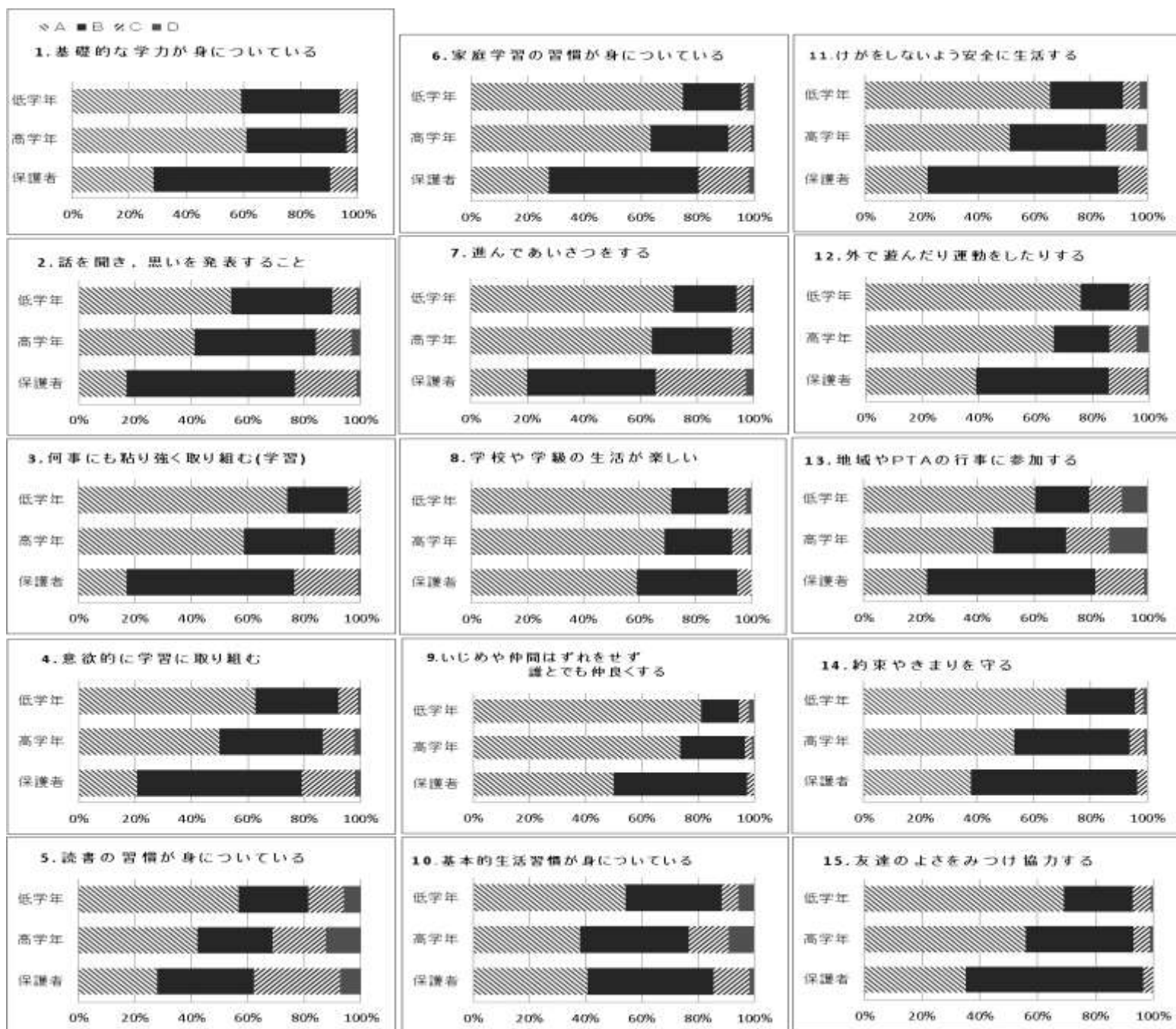
email:katsurazaka-s@edu.city.kyoto.jp

お忙しい中、学校評価のアンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



★児童・保護者アンケートより

A：よくできている B：大体できている C：あまりできていない D：できていない



【児童・保護者アンケート結果から】

昨年度実施した、アンケート結果と比較すると、以下の項目について変化が見られました。

★相手を意識したあいさつを！

「7. 進んであいさつをする」については、児童と保護者で回答傾向が大きく異なる項目でした。児童は90%以上が“できている”と認識しているのに対して、保護者は70%未満です。自由記述には、「旗当番をしているが、あいさつしてくれない。」というご意見や「あいさつしてくれて心が温かくなった。」とのご意見もあるなど、子どもたちには、ただあいさつをするのではなく、相手に伝える意識を持たせる必要があるように考えます。

⇒改善のために

- ・道徳や学級活動の時間を利用して、他者の気持ちを考える機会を持つ。
- ・家庭や地域と連携しながら、大人が手本となりあいさつの大切さを伝える。

★基礎的な学力の定着を実感。新しい学力を目指して！

「1. 基礎的な学力が身についている」については、保護者・児童ともに90%以上が肯定的な回答をしています。スキルタイムや家庭学習の取組を通して、漢字や四則計算といった基礎的な学力の定着を実感していると考えられます。しかし、新しい時代には、“書く”や“説明する”といった表現力も基礎的な学力に含まれます。これらの力を高めるには様々な場で繰り返し学習する必要があります。

⇒改善のために

- ・スキルタイムや家庭学習の内容を見直し、改善する。
- ・国語科や総合的な学習の時間を軸につなぐりのある学習を展開する。

★読書習慣に改善の兆し。さらに読書環境の充実を！

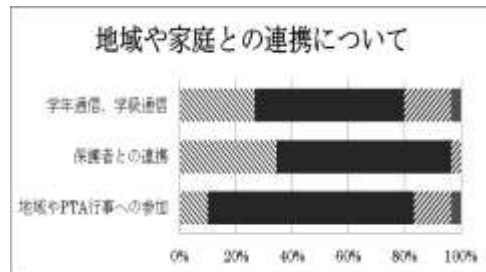
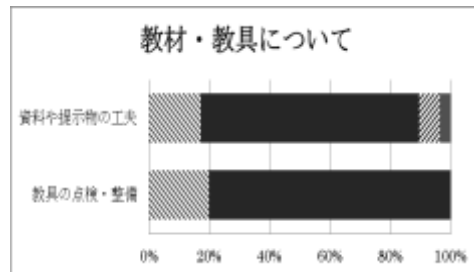
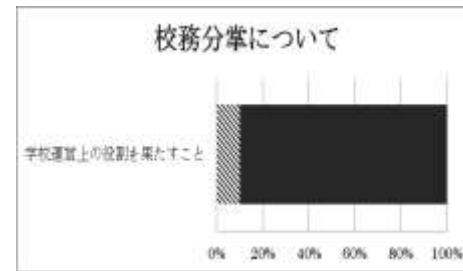
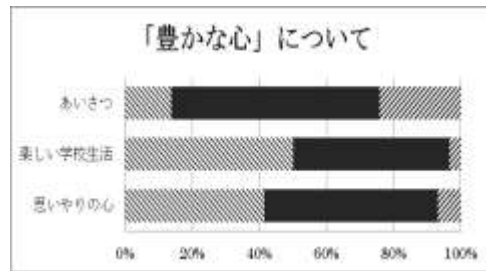
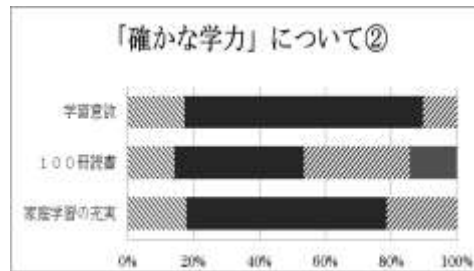
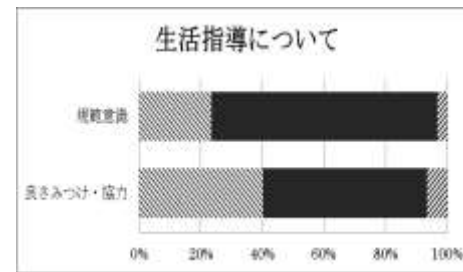
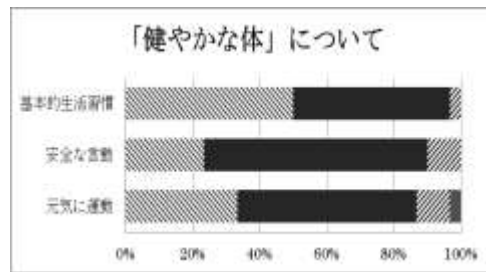
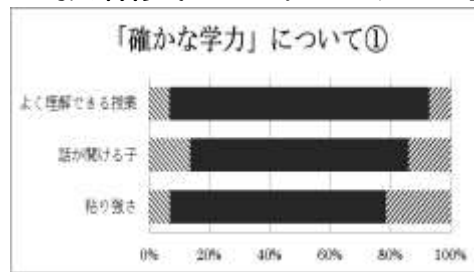
「5. 読書の習慣が身についている」については、保護者・高学年児童で昨年度後期より肯定的な回答の割合が増えています。図書ボランティアの方や本とお話しの会の方など、保護者や地域の皆さんのご協力を得ながら進めている読書の楽しさや大切さを伝える取組が成果として表れていると考えられます。また、毎年、桂坂教育後援会から子どもたちの興味に合わせた図書をいただいていることも要因だと考えます。しかし、他の項目に比べてまだまだ改善の余地があります。

⇒改善のために

- ・子どもたちが気軽に利用できるように、図書室利用の授業を行う。
- ・図書だよりを活用して、本に興味関心を持てるようにする。
- ・学校と家庭が連携して、子どもたちが読書する時間を確保する。

★教職員アンケートより

A：よくできている B：大体できている C：あまりできていない D：できていない



【教職員アンケートの結果から】

教職員は、保護者・児童のアンケート結果を受けて、自己の取組の成果と課題を考察・分析した上で自己評価アンケートを実施しました。

まず、『確かな学力』の「粘り強さ」「100冊読書」については、特に保護者・児童の「3. 何事にも粘り強く取り組む（学習）」「5. 読書の習慣が身に付いている」の評価と大に関わる部分があると考えます。学習や読書に対して意欲的に最後まで集中して取り組むことが児童の課題です。今学習していることが、社会の中でどのように活用されているかを伝えたり、読書によって広い見方や考え方ができるようになることを実感させたりすることが大切だと考えます。

『豊かな心』の「あいさつ」については、教職員も課題意識を持っていることが分かります。学級や学校全体であいさつをする意味をしっかりと教え、気持ちのよいあいさつの仕方について定着できるようにしていきたいと思います。そしてその気持ちのよいあいさつを、地域や家庭でも実践していけるようにしていきたいと考えています。

『家庭や地域との連携について』は、子どもたちの成長を高めるためにも家庭との連携が不可欠でありますので、学年通信や学級通信を通じて保護者の方に必要な情報を発信し続けて、共同で取り組んでいきたいと考えています。

今回の結果や自由記述欄の内容を客観的かつ謙虚に受け止め、指導や取組の改善を図り、より一層充実させていきたいと考えています。

★10月4日（水）第2回学校運営協議会（PKF：プロジェクト・カザラッカ・フォレスト）より

学校評価「保護者・児童・教職員アンケート」の結果を受けて、学校運営協議会（PKF）で話し合いを行いました。

★「進んであいさつをする」について

- ・地域や学校行事で会う子どもたちは、しっかりあいさつしてくれる。
- ・普段、地域で子どもたちが大人と出会ってあいさつをする機会が少ないのではないかと。
- ・初めは恥ずかしそうにしているけど、回数を重ねるうちに、心がつながるあいさつをしてくれる。
- ・あいさつだけで終わってはいけない。その次の会話が大切。

⇒改善のために

“あいさつの大切さ” “人とつながる喜び” を伝えて
学校で、家庭で、地域で **あいさつ＋α** の会話をします。
「おはよう。今日はどんな勉強するの？」など

★「基礎的な学力が身に付いている」

「話を聞き、思いを発表すること」について

- ・表現する方法を学ぶことも大切。しかし、小学生の時は行事に参加するなど、いろいろな体験をして、自分の心を耕し、思いを持つことも大切。
- ・自分の思いを持つうえでも、読書習慣が大切である。図書支援員の先生とともに、使ってもらいやすい図書室になるように整備を進めていきたい。

⇒改善のために

“人との出会い” “本との出会い” を大切に
学習で、行事で、本を読んで
感じた思いを言葉にする機会を増やす。

★「地域やPTA行事に参加する」について

- ・休日を利用した地域行事への参加が少なくなっている。参加することで、いろいろな人や美しいものに会い、その思いに触れてほしい。
- ・区民体育祭や地域行事に参加して、知り合いが増える。親しくなることで、あいさつが気軽にできる関係になるのではないだろうか。

⇒改善のために

“ともに育つ” “ともに育てる” 意識をもって
声かけで、お便りで、大人の後ろ姿で
桂坂地域の魅力を伝える。

今回いただきました貴重なご意見を受けまして、すべての子どもが楽しいと思える学校の実現を目指して今後も教育活動に取り組んでいきたいと思っています。どうぞ保護者や地域の皆様もご理解ご協力いただきますようよろしくお願いします。